

取組名	安全教育
取組の特徴	自分の命は自分で守ろう ～安全に対する意識をもとう～
学校名	下関市立川中幼稚園

取組の概要

本園は、交通量の多い道路に面しており、登降園時における安全に配慮が必要である。そのための方策として

- (1) 市の交通指導員による交通教室の実施（年間6回）
- (2) 降園指導 ～横断歩道での渡り方の指導～
- (3) 園内での指導 ～廊下や階段での歩き方の指導～
- (4) 危機回避能力を高める遊びの工夫

を考え、取り組んでいる。

【実践内容】

10月14日（木）交通教室

ねらい ○自分で左右の安全を確認して、横断歩道を渡る。



みんなで、「サイン右よし、左よし……」
合図の確認をして、4人ずつ実施。



右手をよく伸ばして、左右の確認
をして渡ります。



階段に左右の印



降園時に、階段の右を
一人ずつ降りる年長児

- 交通教室で学んだことを、
実際の場面で自分でできる
ように指導している。
- 年少児も回を重ねることで、
右手を上げることや左右を
よく見ることができるよう
になってきた。
今後は、横断歩道の確認も
自分でできるよう指導して
いきたい。

取組名	避難訓練（地震を想定しての防災訓練）
取組の特徴	災害時の基本的な避難行動を身につける。 地震について理解し、身を守る力を養う。
学校名	山口市立名田島幼稚園

取組の概要

1 日 時 平成23年9月6日（火） 9：30～11：00

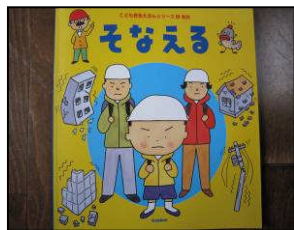
2 場 所 山口市立名田島幼稚園

3 参加人数 園児12名 教員3名

4 内 容

○ 災害時の基本的な避難行動を知る。

・ こども安全えほんシリーズ②防災「そなえる」を見る。



東日本大震災の惨状をテレビ等で見聞きしている子どもたちなので、集中して聞くことができた。特に頭を守る→だんごむしポーズは理解しやすい言葉であったので、すぐ実行していた。

○ 逃げるときの合言葉を知る。

「お」…おさない

「か」…かけない

「し」…しゃべらない

「も」…もどらない



○ 実地指導

・園から避難場所への道を実際に歩いた。危ない場所があるかもしれないので、大人の指示に従って落ち着いて行動できるように声をかけた。

5 その他

○ 降園時、保護者に本日の取り組みについて話をし、注意喚起をした。

○ 園児に理解しやすい防災絵本を読み聞かせをし、実地指導をしたことで子どもの興味・関心が高まったと思われる。

○ その後避難場所、避難経路について地域交流センター、小学校と話し合い、確認をしたことは大変有意義であった。

取組名	安全教育の充実（避難訓練・防災教室）
取組の特徴	地震が発生したと想定し、避難訓練を行なった。その後防災教室を行い、地震の恐ろしさや地震時の避難の仕方について知らせた。
学校名	下関市立西市幼稚園

取組の概要

目標

- 指示に従い、落ち着いて避難する。
- 地震の恐ろしさや、地震時の避難の仕方を知る。

避難訓練（地震発生と仮定して行なう）

【子どもの動き】・地震発生時一室内の安全な場所に身を隠す。

- ・揺れがおさまったら、帽子をかぶり靴を履いて外に避難する。
- ・第2避難場所に避難する。



- 【教師の動き】
- ・地震発生時に、倒れやすいものの近くにいる子どもを安全な場所に誘導する。
 - ・教室の入り口のドアを開け、避難経路を確保する。
 - ・移動する前後に人数確認を行なう。
 - ・出席簿、誘導旗、救急箱を持ち避難する。

防災教室（地震の恐ろしさと、避難の仕方について）

- 地震の恐ろしさについて知らせる。
 - ・地震の被害写真を見せる。（津波、火災、建物の崩壊など）
- 地震時の避難の仕方について知らせる
 - ・紙芝居「じしんがきたら・・・」を読む。
 - ・身を守るための用具や方法について話す。



反省・考察

- ・避難訓練については、落ち着いて教師の指示に従い行動することができた。過去に大きな地震を経験したことがない地域ということで、地震に対する意識が低い。防災教室では地震の恐ろしさを知らせ、地震に対する意識を高めることを目標にした。分りやすく、視覚的教材を使ったことで、理解しやすかったようである。また、身近な物で身を守る方法を具体的に知らせた。日々の生活の中で繰り返し、教育していくことが意識を高めていくうえで大切だと感じた。

取組名	「安心・安全な児童の学校生活のために」
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者・地域と連携した安心・安全な登下校に向けた取組 ・ 児童を取り巻く環境の整備
学校名	岩国市立由宇小学校

取組の概要

1 危機管理マニュアルの充実と共通理解

- ・ 昨年度、既存の危機管理マニュアルの内容をすべて見直し、より実態に沿い、危機を未然に防げるように、改善と充実を図るとともに、危機管理マニュアルの共通理解についての研修を複数回実施した。さらに本年度は、地震発生時の対応についてより具体的に明記し、組織として児童の安全を第一に考えて行動できるように見直した。また、研修を行い、職員の共通理解を図った。
- ・ 児童の新たな問題行動等、危機管理マニュアルの内容になかったものについては、職員への共通理解の場をもつとともに、内容として付け加えるようにしている。

2 児童の自治的能力を高める生徒指導に向けて

- ・ 昨年度から、教職員が主体的に行っていた生徒指導について、改善が図られなかった事案を中心に、児童会活動と連携しながら、高学年児童が主体的に動き、自分たちの生活を見つめ直す活動として取り入れるようにしている。今年度も、児童会活動におけるあいさつ運動や、委員会児童が主体的に運営する集団下校の会、児童が実施する下足箱のチェックなどを行っている。

3 学校安全ボランティアと連携した児童の見守り活動

- ・ 学校が主体となって保護者や地域の方々へ呼びかけ、児童の見守り隊に参加していただいている。今年度も地域の方々や保護者合わせて60名の学校安全ボランティアの方々に、児童の登下校の見守りをしていただいている。熱心な協力を得て安全な登下校につながっている。
- ・ 学校教育との連携のために、毎月「学校安全だより」を発行し、各ボランティアに配布している。
- ・ 児童の登下校に多くの教職員が見守りを実施している。



4 携帯メールによる緊急連絡網の整備

- ・ 緊急に家庭連絡する事案が生じた際に、より迅速かつ正確に連絡ができる手段の1つとして、今年度もさらに、活用しやすい携帯メール配信サービスを整備した。現在、約9割の保護者が登録している。

5 児童の安全を守るための整備事業

- ・ 既存のさすまた等に加え、各学級に防犯ブザーを整備するとともに、安全対策が必要な複数学級への防犯スプレーの整備、職員室から離れた特別支援学級へのワイヤレスの防犯チャイムの整備等を行ってきた。また、犯罪者を寄せ付けないための配慮として、車で外出する教職員が車のドアに貼る防犯ステッカーも整備し、今年度も職員が活用に向けて努めている。
- ・ あわせて、児童の出入り口については、関係教諭が児童の登校後に閉めるようにした。

6 安全マップの改善と活用

- ・ 昨年度、既存の安全マップの改善のために、地区委員への危険箇所アンケートを実施し、指摘された箇所について各地区担当の教員を中心に見回るとともに、教員の目で地区内を見回りながら、危険箇所についての再確認を行った。これを基に、本年度は各地区担当職員が児童の安全指導に役立てている。また、全校朝礼で、画像を見せながら、危険予測学習としての指導も行った。
- ・ 本年度は再確認を行った結果を集約し、画像も効果的に取り入れた安全マップを作成し、このマップについては、全家庭に配布するとともに、本校のホームページにも掲載している。

7 児童の問題行動についての共通理解

- ・ 週3回の終礼の際や、必要な時に、各学級で起こった事案についての報告の場を設け、全教職員ができるだけリアルタイムで共通理解を図り、同じ歩調で生徒指導をすることができるようにしている。

取組名	安全教育の充実
取組の特徴	夏休み前に不審者対応の防犯教室を実施することにより、自分の身は自分で守る意識を持ち、安全な生活を送ることができるようにする。
学校名	柳井市立神西小学校

取組の概要

- 1 日時 平成23年7月14日(木) 2校時
- 2 場所 神西小学校体育館
- 3 対象 全校児童64名
- 4 概要

不審者侵入の放送を受け、全校児童は体育館に担任の指示によって避難。男性教諭は不審者に対峙。

全校児童が体育館に無事避難したところで、避難訓練は終了。

その後、不審者対応に関する指導を行った。

まず、大島派出所の所長が不審者に扮して、実際に不審者に遭遇したらどのように対応したらよいか、代表の児童による訓練を行った。

次に、柳井市生活安全サポーターの方による「いかのおすし」に関する話を聞いたり覚えるための替え歌を歌ったりして、不審者に遭遇したらどのように対応したらよいかの意識の定着を図った。

最後に、登下校時の見守りをさせていただいている「神西小安全パトロール隊」を3名お招きし、一人ひとりを紹介した後、日頃、交通指導等をしているの気づきを話していただき、児童からは感謝の意を表した。

今回の訓練を通して、児童は日頃、保護者や地域の方に見守られていることに感謝の気持ちをもつことができたとともに、「自分の身は自分で守る」といった自主的な危機対応能力をある程度身につけることができた。今後も、機会あるごとに継続して指導を行うことにより、更なる意識化を図っていきたいと考える。



不審者に遭遇したときの対応訓練



生活安全サポーターの方の指導



神西小安全パトロール隊の方の紹介

取組名	安心・安全な学校づくり
取組の特徴	～ 東小の子どもを見守るボランティア活動 ～ 「いつでも」「どこでも」「誰でも」を合い言葉に、保護者やその家族の取組
学校名	田布施町立東田布施小学校

取組の概要

1 安全管理の充実

- ・避難訓練、防犯・防災訓練の実施。
- ・教職員、PTAによる救急救命法（心肺蘇生法・AED使用）の実施。
- ・教職員、PTAによる地区別協議会（通学路の安全点検や見直し）の開催。
- ・教職員、PTAによる学校美化活動（学校周辺の環境整備）の実施
- ・学校保健安全委員会（年2回）の開催。



避難訓練（不審者）



救急救命法



学校美化活動

2 保護者の意識改革 ～東小の子どもを見守るボランティア活動～

- ・保護者（全家庭）やその家族が取り組む。
- ・「いつでも」「どこでも」「誰でも」を合い言葉に。
- ・活動例・・・自宅周辺での登下校児童への声かけ
買い物等の外出時に地域の巡回
学校等に用事の際、学校と自宅間の巡回

3 PTAによる登下校指導

- ・保護者・・・地区ごとに分かれて各家庭1回の登校指導
「気付き」ノートを配布し記録
学期末に回収し指導の参考
- ・教職員・・・交通安全週間や集団下校時に登下校指導

4 地域との連携

- ・学期末（3回）東公民館主催の「東地区補導委員会」に参加し、校区内の自治会長さんとの情報交換。
- ・年度当初（6月）「小学校児童福祉懇談会」、校区内の民生児童委員さんとの情報交換。

取組名	不審者対応避難訓練
取組の特徴	昨年まで取り組んできた「授業中の侵入」という設定を一步進め、「休憩時間中の運動場に不審者が侵入した」という設定で行った。
学校名	光市立岩田小学校

取組の概要

1 日時 平成23年10月4日（火）10:00～10:45

2 流れ

<▲不審者、★教職員、☆児童、◆警察>

☆運動場で上学年が自由に遊んでいる。

▲学校関係者以外の校地内への立ち入り

☆見慣れない人が徘徊しているのを見つけ、付近の先生に知らせる。



★他の職員（職員室・教頭）に知らせるよう、児童に指示する。

★間合いを取り、声をかける 「こんにちは。何かご用ですか」「事務室までお願いします」

▲正当な理由がない（無言） くりかえす

▲退去しない

★特徴を把握しながら、声をかけ「事務室にご案内します。」玄関に誘導する。



★知らせを聞いた教頭は、職員室周りにいる職員に指示をする。

★事務主任は、校内放送をする。「池田先生、池田先生、運動場の池田先生。至急体育館へおいでください。」

★校長、教頭は現場へ行く。 (一暗号文放送:侵入箇所が運動場、避難場所が体育館)

★他の職員は児童を体育館へ移動させる。

・1階→1年担任 2階→3年・おおぞら担任 運動場→5・6年担任

・教務主任→体育館へ直行し避難してくる児童を整理する。・4年担任→児童に指示を与えてから現場へ。

★事務主任は、警察へ110番通報をする。

★可能な教職員で人員確認する。<○年△名異常なし。> → 教務主任へ

不明の児童がいる場合、体育館の職員で捜索する。 全員そろったら、体育館入口を施錠。

◆警察が来て取り押さえる。(終了)

3 防犯教室（避難訓練終了後約20分）

講師 少年安全サポーター 西島勝美様

内容 ・避難訓練に関してのお話

・防犯についてのお話（ロールプレイを交えて）

「下校中に不審者に遭遇したら、どうするか」



4 反省・考察

・休憩時間に児童が自由に遊んでいる際の避難指示とその後の行動については、予想よりもスムーズに行うことができた。ただし、不審者からの速やかな遠ざかりは難しかった。

・出張等により在校職員がたいへん少ない場合もある。このようなときの対応についても想定しておくことと、臨機応変な動きを訓練しておくことの重要性を再認識した。

・110番通報では、不審者の動き等を質問される。できれば、不審者がいる場所が見える所から電話をかけるのがよい（携帯電話を含めて）。

取組名	安全教育をととした安全・安心な学校づくり
取組の特徴	子どもの危機予測、危険回避能力を育成する安全学習の実践
学校名	宇部市立上宇部小学校

取 組 の 概 要

1 交通事故に関わる指導（7月）

（1）教職員の共通理解

生徒指導メモを配付し、職員朝会で事案の概要と指導事項について共通理解した。

生徒指導メモ11（交通事故）

事案

【事故現場（手前が運動場側）】 どんな危険が考えられますか？

〇〇日午後〇時頃、4の門を出たすぐの三叉路で、下校中の本校〇年生児童が自動車と接触する事故が起きました。運転者は〇〇の男性で、徐行運転をしていたと思われるが、児童は左足を骨折。以下の指導をよろしくお願いします。



指導内容

4の門から出た三叉路で、児童と車が接触し、大きなけがをした。

◎**危険予測学習を含めた指導**をよろしくお願いします。

- 飛び出しは絶対にしない！
- 車道へ出る際（道路の横断、T字路なども含め）には、一旦停止・目視による左右確認を必ずすること。
- 交通事故はどこでも起こりうるものであり、一瞬で命を奪うものであること。

※ 4の門から下校する児童を集め、**現場で指導**したいと思います。昼休みに、**運動場体育倉庫前に集合**させてください。

（2）道路標示・アドバンスミラーの設置などへの働きかけ

（3）事故の起きやすい場所での実地指導

【授業の流れ】

- グラフから交通事故の原因を調べ、飛び出し事故の多さに気づく。
- 飛び出し事故を防ぐにはどうしたらよいのか話し合う。
- 実際にT字路で一旦停止・アドバンスミラーの活用・車の見えにくさの確認等を行う。
- 今後の生活に生かせることをまとめる。



2 参観日を利用した危機予測学習（10月20日）

【授業の流れ】

- 絵を見て危険な箇所や行動について話し合う。
- 危険を避けるにはどうしたらいいか考え、発表する。
- 実際の生活の中で同じような場所や行動がないか思い出し、話し合う。



取組名	不審者侵入を想定した避難訓練
取組の特徴	スクールガードリーダーと連携した避難訓練
学校名	宇部市立常盤小学校

取組の概要

1 ねらい

(1) 児童のねらい

低学年：不審者が侵入した時に、先生や放送の指示に従って安全に避難することができる。

中学年：不審者が侵入した時に、先生や放送の話をよく聞き、指示に従い落ち着いて安全に避難することができる。

高学年：不審者が侵入した時に、先生や放送の話をよく聞くとともに、周囲の安全を確認しながら素早く安全に避難することができる。

(2) 教職員のねらい

○ 不審者が学校に侵入した場合の役割を理解し、お互いに連携しながら児童の安全が確保できる実践力を身に付ける。

○ 訓練を通して危機管理意識の高揚を図る。

2 日時

平成23年10月7日（金曜日） 9時30分～10時10分

3 想定

不審者が授業中の普通教室棟のろうかをうろついている。

4 内容

(1) 事前指導

指導内容	留意点	備考
○避難訓練の意義や基本的な行動の仕方 ○不審者の怖さや身を守る方法	●生命を守るために安全に避難することの大切さや安全確認・無言・整然敏速の原則を守ることを確認する。 ●不審者の怖さを学年に応じて具体的に指導する。 ●不審者侵入が起きた場合に身を守る方法を知らせる。	施錠確認場所の確認

(2) 訓練の様子

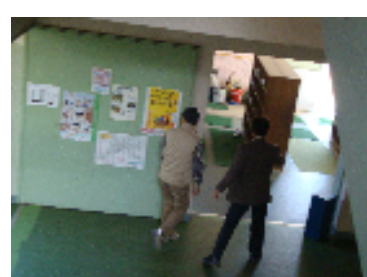
普通教室棟ろうかをうろつく不審者（SGL）



不審者に対応する教員



不審者を管理等に誘導



不審者侵入を伝える教員



不審者侵入を知り教室に待機する児童



避難誘導する担任



体育館に避難する児童



体育館に避難した児童



SGLの話を聴く児童



SGLから学ぶ護身術



※ 訓練の内容の詳細は別紙。

(3) 事後指導

振り返りカードを使って訓練について反省を行う。(各クラスで)

振り返りカードに記入する児童



※ 振り返りカードは別紙。

(4) 訓練を終えて

- 教師の指示に従い、児童はオハシモを守り、迅速に体育館に避難できた。
- SGLの不審者に出会ったときの対応の仕方の指導は、具体的でわかりやすく実践につながるものであった。特に「助けて。」ではなく「来るな。」「あっちに行け。」と大声を出すことは効果的であると感じた。
- 避難の仕方のすばらしさをSGLに誉めていただいたことは児童の自信につながったと思う。




【別紙 (訓練の流れ) (振り返りカード)】

訓練の流れ	不審者の動き	授業者の動き	児童	授業者以外の動き
<p>9時30分</p> <p>不審者侵入 不審者確認</p>	<p>東昇降口から普通教室棟に侵入。</p> <p>東階段から3階に行き、3階の廊下をうろつく。</p> <p>5年1組担任の指示に従いながら、校長室に向かう。</p>	<p>●授業</p> <p>◎<u>5年1組</u> 5年1組担任不審者に気づき、児童を落ち着かせた後、不審者に対応する。 5年2組担任に不審者が侵入したことを伝える。「お客様、1本です。」その後、東階段から校長室に案内する。 5年2組担任は、1組児童に戸と鍵を閉めるよう指示をする。</p> <p>◎<u>5年2・3組</u> 2組担任は、2組児童にも同じ指示を出し、3組に伝える。3組担任は6年に伝える。6年担任は戸や鍵を閉める。</p> <p>◎<u>1～4年・6年</u> 6年担任は、不審者の動きを見て4年担任に伝える。4年担任は2年担任に伝える。2年担任はなかよし担任に伝える。4年担任は3年担任に伝える。3年担任は1年担任に伝える。(不審者の動きを確認しながら。)</p>	<p>●授業</p> <p>◎<u>5年1組</u> 席につき、静かにしておく。</p> <p>5年2組担任の指示に従う。</p> <p>◎<u>5年2・3組</u> 席につき、静かにしておく。</p> <p>◎<u>6年</u> 席につき、静かにしておく。</p>	
<p>9時35分</p> <p>緊急放送</p>	<p>校長室で校長先生という。</p>	<p>●放送を静かに聞かせ、次の指示があるまで沈黙させる。</p> <p>●出入り口に行き、戸と鍵を閉め、児童を守る体勢をつくる。窓のかぎも閉める。(バリケードづくり。椅子をもつ。)</p>	<p>●静かに放送を聞き、その後も静かに教室で待つ。</p>	<p>事務1：110番通報職(想定) 職員室教職員：5年1組担任から連絡を受ける。数名、校長室に駆けつける。</p> <p>事務2：放送をする。 「訓練。連絡。連絡。お客様です。校長室に1本。」(3回繰り返す。)</p>

訓練の流れ	不審者の動き	授業者の動き	児 童	授業者以外の動き
9時40分 不審者身柄確保 緊急放送	警察官に身柄を拘束される (想定)	●放送を静かに聞かせる。	●静かに放送を聞く。	事務2：放送をする。 「連絡。連絡。児童のみなさんは先生の指示に従って体育館に集合してください。」(2回繰り返す。)
9時41分 体育館移動開始		●児童を体育館へ誘導する。	●静かに体育館へ移動する。 (オさない。ハシらない。シャベらない。モどらない。)	養護教諭：保健室児童を誘導する。体育館で担任に渡す。
9時45分 避難完了 SGLの話 校長先生の話		●児童を座らせる。 ●児童人数確認 ●教頭に報告 「〇年〇組(欠席〇名)全員無事避難しました。」	●静かに待つ。 ●SGLの話を聞く。 ●校長先生の話聞く。	教頭：各担任から人数報告を受ける。全クラス報告後校長に報告する。 養護教諭：負傷者の把握。 応急処置。必要に応じて、医師、保護者に連絡をする。 救急車依頼。(想定) 専科：不明者の搜索をする。 (想定)

【振り返りカード】

<u>ひなんくんれんのふりかえり(10月7日)</u>		
()ねん ()くみ なまえ()		
1 だまって、ほうそうをきくことができましたか？	はい	いいえ
2 だまって、たいいくかんにいくことができましたか？	はい	いいえ
3 ひとをおさないで、たいいくかんにいくことができましたか？	はい	いいえ
4 あるいて、たいいくかんにいくことができましたか？	はい	いいえ
5 たいいくかんで、しずかにしましたか？	はい	いいえ
6 こうちょうせんせいたちのおはなしをきちんとききましたか？	はい	いいえ

取組名	緊急下校・避難訓練
取組の特徴	大規模校における、安全な避難の仕方
学校名	宇部市立東岐波小学校
取組の概要	
<p>本校は、全校児童 819 名の大規模校である。従って、児童を一人残らず安全に避難させるためには、綿密な計画が必要である。その上で、緊急時に際しての場面ごとの判断は、各場の担当者の判断に負うところが多い。従って、各学年に配布してある「危機管理マニュアル」の徹底には、日常から留意しているところである。</p> <p>以下に示す事例は、緊急避難訓練である。</p> <p>1 緊急地区別下校（5月実施）</p> <p>〈指導の実際〉</p> <p>(1) 事前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理マニュアル」の確認 ・下校方向が異なる児童や学童の児童、欠席児童は、予め本部に連絡しておく。本来の地区名と変更する地区名を明記する。 ・集合する教室を知らせておく。 <p>(2) 各地区の教室に、集まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送の合図で移動する。 ・1年生は待機。6年生が迎えに行く。 ・靴を持って、地区の教室に移動する。 ・戸惑ったときは、職員室前に来ること。 <p>(3) 各教室で、人数を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が合わないときは、本部に連絡する。 <p>※本部は、ホワイトボードを用意しておく。新規の情報は、ホワイトボード上で共有する。</p> <p>(4) 下校指導をする。</p> <p>(5) 地区ごとに下校する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室が分かれている地区は、下校時刻を合わせる。 ・地区担当は、下校を見守る。 <p>〈成果と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室を集合場所としたが、混乱なく動くことができていた。 ・地区児童名簿を作成したことで、児童の把握が確実にできるようになった。 ・地区担当は、担当地区のことをある程度把握しておきたい。 ・年度当初からの住所変更等の変更は、予め本部で把握しておきたい。 <p>2 不審者対応避難訓練（6月実施）</p> <p>(1) 事前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理マニュアル」の確認 ・各担任は、避難訓練の目的を児童に話し、「放送に従って行動をとること」「次の指示があるまで静かに待つこと」「体育館への移動（避難行動②）の仕方」を指導しておく。 <p>※「お・は・し・も」を指導しておく。</p> <p>(2) 通報・連絡・放送①・避難行動①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一発見者→教頭→校長・放送① ・今回の第一発見者は、すぐに職員室に連絡をする。 ・職員室、事務室にいる教職員が現場に集まり、不審者に対応。「さすまた」の準備。 <p>【避難行動①】</p>	
	 <p style="text-align: center;">地区ごとに教室から運動場へ移動</p>
	 <p style="text-align: center;">教師の引率で地区ごとに下校</p>
	 <p style="text-align: center;">指導者の講評</p>

- ・教室の中で静かに待機する。窓と出入り口は閉める。
- ・第2・3校舎は1階、2階の出入り口を閉める。
- ・教職員は反撃できるものを持つ。(椅子等)

※授業中ではあるが、不審者が万一校舎内に侵入し、教室に近づいて児童に危害を与えることのないように、児童の所在、安全を確認し、施錠をする。

※児童には、次の放送があるまで、静かに待機することを伝える。

※基本的行動としては、不審者撃退班の教員については、学級の安全が確保された後に不審者に対応する。その後の学級の指示は、隣接学級担任が担当する。



校長の講評

(2) 不審者の確保後 ～ 放送②・避難行動②

不審者の確保→教頭→校長・放送②

【避難行動②】

- ・全校朝会と同様な形で体育館に集合する。

(3) 人員確認及び負傷者確認

- ・体育館に集合後、児童の人員の確認と負傷の有無の確認を行い、学年主任がとりまとめて教頭へ連絡する。教頭は、校長に報告する。

(4) SGL(スクールガードリーダー)による指導

(5) 事後の指導

- ・「放送に従って行動をとることができたか」「指示があるまで静かにまつことができたか」「体育館への移動(避難行動)の仕方はよかったか」について、児童に確認する。
- ・校外での不審者対策について、「子ども110番の家」の存在や大声を出して助けを呼ぶこと、すぐに110番通報をすること等を指導する。

〈成果と課題〉

- ・指導者から「100点満点」の評価をいただいた。
- ・800名余りの児童が、教師の指示に従い、迅速にしかも無言で行動することができた。
- ・不審者の確保に際して、児童のいる校舎側へ「スキ」ができた。場所による確保の方法を再確認した。
- ・不審者が教室近くまで侵入した場合の対応も訓練しておきたい。

取組名	地域ぐるみの学校安全・安心防犯推進事業
取組の特徴	学校、警察、教育委員会、地域のボランティア、保護者といった、地域ぐるみで推進する防犯への取組
学校名	下関市立勝山小学校

取組の概要

本校校区、隣の一の宮小校区を含む勝山中学校区は、不審者事案が後を絶たない状態であった。そこで、危機を未然に防止していくため、地域ぐるみで防犯に取り組み、先手を打って、学校安全・安心を確立していこうと、本事業を立ち上げた。

- 1 期日 10月17日(月)13:30～16:00
- 2 参加者 6年生児童全員、山口県警察本部、下関警察署、下関市教育委員会、地域の見守り活動に取り組んでいるボランティアの方々、保護者、教員
- 3 目的 校区内を16班で回り、危険・安全箇所等の確認と安全マップの作成



4 内容

(1) 開会行事

- ・ 警察署、教育委員会、学校長よりあいさつ
→ フィールドワーク（安全マップ再点検活動）について確認、徹底する。

(2) フィールドワーク



- ・ 校区を16分割し、危険、あるいは安全な箇所を確認していく。
- ・ 6年生児童は16班に分かれ、すべて徒歩で見回る。
- ・ 各班に、警察や地域の見守りボランティア、教員、保護者がつき、安全確保、およびアドバイスをを行う。
- ・ 児童は、手元の地図に印をつけ、何がどのように危険か具体的にメモを取る。
- ・ カメラで写真撮影をし、後でマップづくりするときに貼るようになる。
- ・ 地域の方、コンビニや商店の方々にインタビューをさせていただき、その地域で危険に感じられていること等、お気づきをうかがう。
- ・ 学校に戻り、安全マップに危険箇所、安全箇所を位置づけ、注意事項や留意点を書き込む。
- ・ 写真ができれば、貼り付けるところまでを当日の活動とする。

5 事後指導

後日、写真を貼ってマップを完成させる。それぞれの班が担当した地域の危険面、安全面を発表し合い、情報を共有することにより防犯の意識を高める。

なお、作成したマップはコンクールに応募する予定である。また、この事業については、新聞等で報道されて、地域社会に取組を公開した。

取組名	交通安全教室(自転車の乗り方教室)
取組の特徴	校区に隣接している交通教育センターを活用し、4年生児童にセンターの職員の方や地域の方から自転車の乗り方について指導して頂く。
学校名	周南市立桜木小学校

取組の概要

- 1 実施日 平成23年6月8日 9時～12時
- 2 対象者 4年生児童 59名
- 3 指導者 交通教育センター職員の方 2名
交通安全協会桜木支部の方 8名
- 4 内容 4年生児童は、自分の自転車を押しながら登校、出発までに桜木地区の交通安全協会の方が自転車の点検をしてくださる。
9時に自転車を押し、地域の方とともに交通教育センターに出発。途中の安全指導も地域の方にさせていただく。
センターでは、ビデオの視聴や、施設を利用して自転車の乗り方について指導をしていただいた。



桜木地区の交通安全協会の方による実技指導

交通安全教育センターの職員の方による自転車の乗り方指導



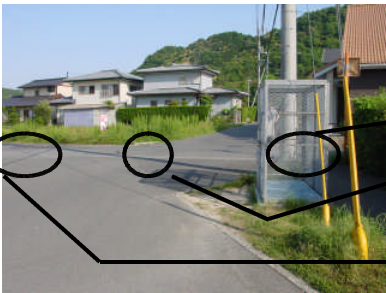
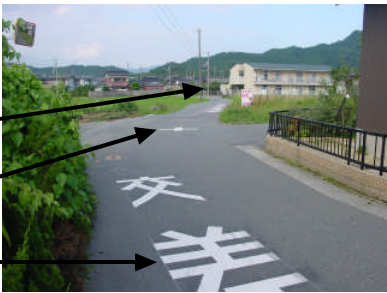


自転車の乗り方の実演



- 5 実施後の感想
センターの施設は充実しており、自転車の乗り方について実際に役立つ指導をしていただくことができた。
地域の方からは、自転車の点検をしていただいたり、一人ひとりに丁寧に指導をしていただいたりして、児童も真剣に話を聞くことができた。

取組名	地域と一体となった通学路の安全環境づくり
取組の特徴	通学路の危険箇所の点検を学校で実施し、平川地区交通安全協会、自治会、行政と連携して改善を図った。
学校名	山口市立平川小学校
取組の概要	
<p>4月の通学路の安全点検をもとに、危険箇所について改善点を校内で検討し、実地調査を行った後、改善案を平川地区交通安全協会に要望として提出した。その後、学校と交通安全協会が中心となり、自治会や行政と連携して、道路標識やカーブミラー等が設置され、地域ぐるみで交通事故防止に向けて取り組むことができた。</p>	

危険箇所	改善前	改善後	備考
岡小路（藤本たばこ屋前）の変則十字路			道路に標示「横断者注意」 (6月改善)
吉田団地の閑住宅側出入口			道路に標示「徐行」2箇所 (6月改善)
M A C 横（山口大学テニスコート前）の細い道			ミラー設置 (7月改善)

<p>岡大塚の交 差点</p>			<ul style="list-style-type: none"> ●道路に「交差点注意」2箇所標示 ●交差点中央に「+」標示（6月改善）
<p>山陽工務所前（平川中学校テニスコート後ろ）の三差路</p>			<p>道路に標示「スピードおとせ」2箇所（6月改善）</p>

取組名	「横断歩道を車のドライバーから見ると」
取組の特徴	校区内の危険箇所について、写真等を有効に活用したKYT学習
学校名	美祢市立桃木小学校

取組の概要

1 ねらい

- 横断歩道での安全確認の必要性を、車を運転するドライバーの視点から考えさせる。

2 準備物

- 横断歩道の写真
- 学校の校門から横断歩道に向かう車道を車の運転席から撮った写真（5枚）

3 学習過程

- 問題：①から⑤までの写真で、どの写真の位置からだったら、横断歩道で「右よし、左よし」をしている人が見えるか？



- 予想を立てる。
- 答え：⑤まで来ないと、車から横断しようとしている児童が、見えない。
- 問題：①から横断歩道まで、何秒？
- 予想を立てる。
- 答え：3秒ぐらい。
- まとめ：「止まれ」の標識があることを予知していない車は、かなりのスピードでやって来るので、⑤で横断しようとしている児童に気がついても、ぶつかってしまう可能性がある。（⑤から横断歩道まで1秒もかからない。）



4 考察

- この横断歩道を横断しようとする時、顔をしっかり右に向けないと、車が来ているかどうか確認できない。前からそれがとても気になっていた。そこで、今回、この学習に取り組むことにした。その結果、児童はこの横断歩道の危険性に気がつき、顔をしっかり向けて安全確認をする必要性を感じたようだった。
- 本校では、よく一斉下校の時、ミニKYT学習を行っていたが、時間が十分確保できないため、今回は給食時間（後半）に行ってみたが、これも手軽にできる効果的な方法であると感じた。



取組名	危険予測学習
取組の特徴	電子黒板を使い、視覚から得る情報を元にして、危険を予測・回避する能力を高める。
学校名	下関市立豊東小学校

取組の概要

1 ねらい

危険な場面について考えることにより、交通事故は、どんな要因で起こり、どうすれば防ぐことができるかを理解させるとともに、自分の命は自分で守ろうとする意識をもたせる。

2 授業の内容

(1) 事故の原因と防止について考える

危険を含んだ図を見て事故が起きる要因となりそうなことを考え、発表する。
(自転車で交差点をわたるとき、自転車で踏み切りをわたるときなど)

(2) 自分たちの生活を振り返って考える

自分たちの普段の生活の中で事故がおきそうになった事案や危うかった体験を思い出させ危険を予測し、事故を防止しようとする意識を高める。

3 成果と課題

(1) 危険な場面を、電子黒板にプレゼンテーションソフトで提示することで児童全員が共通な目で危険を予測したり、危険箇所を電子黒板に書き込んだりすることができた。

(2) 本校の校区内にはない踏み切りでの危険について学習することができ、よい経験となった。

(3) 子どもにより、経験していることが違うため、危険な場面を危険だと感じないこともあり気になった。

(4) 子どもたちの危険を予測する力が、教室の中だけのものにならないように、いかに実際の生活の中で生かしていくことができるようにするかが今後の課題である。



取組名	地域で学校の安全を考える取組
取組の特徴	離島という特色を有する学校であるが、東日本大震災以降、島の安心安全が大きなテーマとなっており、その中での児童の安全を模索する取組
学校名	上関町立祝島小学校

取組の概要

○ 取組の概要

5月17日、学校公開日を設定。あわせて、校長室にて、以下の方たちと児童の安全の確保を協議した。(拡大学校評議員会として招集)

出席者：上関町教育委員会教育委員長、祝島小学校学校評議員、祝島自治会長、祝島消防団長、祝島駐在所長、祝島出身町議会議員、祝島小学校長
(出席の顔ぶれを考えると、学校コミュニティーの色彩が濃い。)

協議内容：大地震・大津波の際の島の防災について(端的には、児童の安全の確保について)

主たる意見：緊急通報の確実な伝達・確保の必要性。

最も妥当な子どもたち(島のお年寄りを含め)の避難場所を運動場中央にする。

実際の対応：6月3日に、地震・津波想定での避難訓練を実施する。

あわせて、消防団長、駐在所長立会のもと、実施する。

○ 「学校だより」での地域啓発(下参照)

<本校の防災について>

5月17日(火)拡大の学校評議員会において、「もしも、大地震、津波が発生したら」というテーマで、意見交換を行いました。

- ・ 緊急通報(情報)の確受
 - ・ 児童や地域の方の避難集合場所(運動場中央)
- この2点について、しっかりと意見交換しました。

※ 6月3日に、地震対応の避難訓練を行います。
(この日は、学校公開日です。)

○ 避難訓練の実施(写真参照)

消防団長さんの話も聞き、意識付けを一層図った。

地元の自治会への意識付けもあわせて可能となった。



取組名	地震津波対応避難訓練	
取組の特徴	東日本大震災を受け、地震特に津波に対するマニュアルの見直しを行い、大津波警報発表時の安全な避難誘導について訓練を実施した。	
学校名	平生町立平生小学校	
取組の概要		
1	ねらい ①地震及び津波発生時における安全な基本行動を身に付ける。 ②地震や津波に備え、安全意識の高揚を図るとともに、生命尊重の精神を養う。 ③非常時における職員の避難誘導體制の確認を行う。	
2	地震の想定 ○授業中に震度6弱の地震発生。児童を各教室に避難させる。【一次避難】 ○大津波警報が発表されたことを受け、児童を大星山方面に避難させる。 【二次避難】	
3	実施日時 平成23年10月18日(火) 9:25～10:10	
4	<p>当日の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9:28 地震発生(非常ベル) 地震発生 of 緊急放送 ・ 30秒後 地震が止んだことを告げる放送 ・ 9:29 一次避難開始 (児童を各教室に避難させる) ・ 9:32 一次避難完了 人員確認・報告 (教室待機・情報収集) ・ 9:33 大津波警報発表 of 緊急放送 二次避難開始 (児童を大星山方面に避難させる) ・ 9:45 二次避難完了 人員確認・報告 ・ 10:00 運動場へ移動完了 講評 事後指導(各学年で) 	 <p>学級ごとに2列に並んで速やかに移動</p>
		 <p>教師の指示(情報)に耳を傾け、落ち着いて行動</p>
5	<p>実施後の反省・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難経路を低中学年(二次避難場所まで約750m)と高学年(同 約1000m)に分けたことで混雑することなく、全校児童を避難させることができた。 ・ 東日本大震災のこともあり、児童は緊張感をもって、真剣に訓練に取り組んでいた。 ・ 一斉下校(月1回)を避難訓練の一環として位置付け、全校児童が一切私語をせず、速やかに行動できるよう普段から意識を高めていくとよい。 	
		 <p>全員無事、三次避難場所に避難完了</p>

取組名	地震発生に対応した危険予測学習（KYT）と避難訓練
取組の特徴	地震発生に対応したKYTを通して危険予知能力を高めるとともに、地震発生時（校外・学校内）の避難訓練を実施することにより、危険回避に必要な能力を育む。
学校名	山口市立八坂小学校

取組の概要

1 地震発生に対応したKYT（４ラウンド法）

〔道路歩行中の発生場面〕５月１１日実施

- ① 現状把握
 - ・倒れやすいもの、がけ、川のそば
- ② 本質追求
 - ・倒れやすいものとは何か考える。
 - ・がけや川が危険な理由を考える。
- ③ 対策樹立
 - ・頭を覆う。
 - ・倒れやすい物から離れる。
 - ・落ち着いて行動する。
 - ・自動車に注意する。
 - ・道路の亀裂に注意する。
- ④ 目標設定
 - ・通学路の危険箇所を把握する。
 - ・安全な避難場所を把握する。
 - ・安全な避難方法を理解する。

〔学校内での発生場面〕９月７日実施

- ① 現状把握
 - ・体育館、廊下、運動場の危険
- ② 本質追求
 - ・落下物や窓ガラスの危険について考える。
- ③ 対策樹立
 - ・体育館…中央部に集まる。
 - ・廊下…近くの教室か壁ぎわへ移動する。
 - ・運動場…中央部に集まる。
 - ・頭を覆い、身を低くする。
- ④ 目標設定
 - ・放送や先生の指示を聞く。
 - ・「おはしも」を守り避難する。
 - ・危険物に注意し、落ち着いて避難する。
 - ・指示に従い、運動場の中央部に集まる。

- ・初めに、昨年実施した教室内で発生した地震に対する避難訓練を想起させることで、机の下での安全確保や放送や先生の指示を聞くことの大切さを確認させた。
- ・校区内や校舎内の写真を資料として用いることで、子どもたちが身近な問題としてとらえ、具体的に危険予測を行うことができた。
- ・縦割り班を活用してグループを作り、話し合いを行わせることで、上学年が下学年をリードしながら意見交換できるようにした。



2 地震発生を想定した避難訓練の実施

〔下校時の発生を想定〕５月１１日実施

- ① 通学班ごとに通学路調査を行いながら下校する。
- ② 地震発生に伴い、安全確保を行う。
- ③ 一時避難可能な安全場所への緊急避難を行う。

〔昼休み時間の発生を想定〕９月８日実施

- ① 地震発生に伴い、児童はそれぞれの場所での安全確保を行う。
- ② 教員による避難経路の確認後、運動場への避難を行う。
- ③ 余震発生時の安全確保を行い、再度運動場へ避難する。



- ・実際に児童自らが通学路の危険物、危険箇所を確認することができたので、危険予測につなげることができた。
- ・KYTと連動して避難訓練を行ったので、児童が危険回避の具体的な方法を理解し、実際に行動することができた。
- ・下校時や学校内の昼休みの想定であったため、児童や教員の実態を把握することができ、今後への課題を得ることができた。

3 取組を終えて

- ・KYTを行うことで、児童が実際に起る可能性がある地震の危険性を主体的に学び、危険予知能力を高めることにつなげることができた。
- ・教室内、通学路、教室以外の校舎内を順次想定し、計画的にKYTと避難訓練を行うことで、地震に対する総合的な危険予知能力や危険回避能力を育てることができた。

取組名	避難訓練（地震対応）及び緊急通報訓練
取組の特徴	従来の避難訓練に加えて、保護者・地域への緊急連絡訓練を行い、緊急時に確実に連絡が取れるかを確認した。
学校名	山陽小野田市立有帆小学校

取組の概要

1 地震対応の避難訓練

次のような想定で地震対応の避難訓練を実施した。

- ・ マグニチュード7.2の地震が発生した。
- ・ 震源地は、下関市である。
- ・ 山陽小野田市内の震度は、6弱と推定される。
- ・ 市内各所で、電話機・電線・水道管・ガス管などのライフラインが寸断される。

運動場に避難したところで、避難訓練については終了。その後は、校舎の安全を確認後、児童は校舎内に避難し、学校待機という想定で、緊急連絡訓練を実施した。

2 保護者・地域への緊急連絡訓練

メールサービス（有小メール）を利用して緊急連絡をした。本校の保護者の有小メールへの登録率は約90%である。未登録の保護者については、直接担任から電話連絡をすることとしている。訓練メールは次のような内容で配信した。

訓練メールの内容：

訓練。訓練。山陽小野田市で地震発生。出席児童につきましては、全員無事です。市内各所でライフラインが寸断されている様子ですので、児童は学校待機とします。

実際の場合は、「児童を迎えに来てください」といった内容も入ることとなる。

保護者については、「緊急連絡確認表」を提出してもらい、連絡が確実に届いたかどうか確認をした。結果は、149家庭中、15家庭（確認表未提出も含む）において緊急連絡が届かなかった。

3 児童引渡しカードの作成

児童を保護者に確実に受け渡すために、右のような「児童受け渡しカード」を作成し、災害時に備えることとした。

児童を保護者に受け渡すとき、カードを半分にちぎり、濃い部分を保護者に渡すようにする。

2 年 1 組	36	有帆太郎	有帆太郎	36	2 年 1 組
------------------	----	------	------	----	------------------

4 成果と課題

有小メールを使うことにより、連絡がすばやく届くという利点は大きいものがある。しかし、様々な要因により、どうしても漏れが生じる可能性があることが確認できた。緊急連絡システムが本当に機能するかどうかという確認を常に行う必要があることを感じた。確認を繰り返すことで確実性を高めていくしかないと思う。

本校周辺は、有帆川がすぐそばを流れ、校地も低いことから、水害には十分警戒が必要な地域と言える。津波に対しても、近くに高地がないので、災害時には、一番の頼りは校舎と言うことになりそうである。しかし、一応は、二次避難の場所として、近くを通る高速道路も想定の中に入れて、「いざというとき、児童の命が守れる、防災体制」を課題とし、常にその質を高めていきたい。

取組名	安心・安全な学校づくり
取組の特徴	学校安全計画、危機管理マニュアルをもとに児童、教職員に対して、安全教育の必要性を十分浸透させるとともに、安心・安全な学校づくりを計画的に進めている。また、避難訓練、AED講習会、交通教室等の各種行事で児童の体験を重視し、実感を伴った安全教育に取り組んでいる。スクールガード（安全見守り隊）やスクールガードリーダー、地区青少年健全育成町民会議、小中連携部会、育友会（PTA）等地域の人たちと様々な学校行事等で連携して取り組み、地域に根ざした安全活動を展開している。
学校名	周防大島町立明新小学校
取組の概要	
<p>(1) 安全教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練実施（地震・津波、火災、不審者対応） ・強風大雨、台風対応（安全確保、危険予知） ・交通安全指導（入学前親子交通教室、3年自転車教室、集団登校の安全な仕方・地区別児童会） ・各教科での「用具の安全な使い方」指導 ・安全な清掃活動指導 ・命を守る水泳指導 ・正しい遊具の使い方指導及び校舎内外での安全な過ごし方指導 ・あいさつ運動（危険予知能力、コミュニケーション能力の育成） ・クリーン作戦・花いっぱいのかいれいな学校づくり（安全・安心な地域づくり） <p>(2) 安全管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎・遊具安全点検（毎月15日）・校舎内外危険箇所の整備（修繕、除草、樹木剪定、清掃等） ・交通（登校）指導・通学路の安全点検（毎月1、15日） ・台風対応（校舎内外の整理、文書配布：台風予報・児童の安全確保について） <p>(3) 家庭、地域、関係機関等との連携について</p> <p>○育友会（PTA）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会（PTA）による毎月1、15日交通指導（登校の見守り、あいさつ運動、通学路の点検） ・ヘルメット着用の推進 ・夏季プール監視当番 ・心肺蘇生法講習会育友会開催 ・学校環境整備「親子奉仕作業」 <p>○地域、関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全見守り隊（地域）による毎日の登校見守り、あいさつ運動、通学路の安全点検 ・スクールガードリーダーによる児童や育友会員への講話と学校取組の指導 ・地区青少年健全育成町民会議、小中連携部会において地域での児童生徒の安全行動把握、情報交換 	

取組名	安全教育の充実
取組の特徴	避難訓練及び危険予測学習（交通安全・不審者対応）
学校名	周南市立周陽小学校

取組の概要

1 避難訓練

6月29日（水） 業間から3校時 場所 運動場及び教室

今年度の不審者対策避難訓練は、業間時間に児童が自由に遊んでいるとき不審者が進入するという設定で実施した。児童には、29日（水）実施とは知らせていたが避難訓練開始時刻は知らせず実施した。また、教職員にも不審者の進入場所等詳細は知らせていなか



ったので、その場での臨機応変の対応が必要となり職員にとっても臨場感のある訓練となった。



その後、スクールガードリーダーに不審者対応について指導していただいた。



2 危険予測学習

7月1日（金） 1校時 場所 体育館



全校児童を対象に、体育館でKYTのために作成したプレゼンテーションファイルをプロジェクターにて大画面に投影し、問いかけながら考えさせる授業を実施した。

具体的な内容は、（1）交通安全に関するものと（2）不審者対策に関するものである。

（1）交通安全に関するもの

スライドを停止しながらそのつど考えて発表する場を設定し、事故を回避するためにはどうすればよいのかを理解できるように指導した。

（2）不審者対策に関するもの

「いかのおすし」の紙芝居を読みながら、児童に問いかけ、考えて発表する場を設定し指導した。

また、「いかのおすし」を復唱させ、いざ自分の身近で同じようなことが起こったらどうするかについても指導し実践力の育成を図った。



取組名	教職員による危機対応の夏期研修
取組の特徴	危機対応演習資料を活用したグループ演習による研修（2回実施）
学校名	美祢市立嘉万小学校

取組の概要

1 概略

夏季休業中に、危機対応の研修を2回行った。県より配布された資料を活用した。

2 事件・事故等への対応についての研修

「交通重大事故」を活用して

本校で起こってもおかしくない事例を選び、場所や時間帯も実際の場面を想定して演習を行った。

具体的な場面を想定してのグループ討議だったので、活発な意見交換がなされた。

放課後という想定で考えられることは管理職がいないかもしれない。また、職員室の職員も手薄かもしれない。だから、全ての教職員が対応にあたる可能性があるということを確認したことでみんなの真剣さが増していった。



3 生徒指導上の課題への対応

「いじめⅡ」を活用して

2回目の演習は前回経験の生かした演習となった。前回とは、グループ構成員を変えて行った。

児童の様子が全て記述してある内容ではないため、児童の様子を想像して考えられる意見が多面的に出てきた。



4 研修を終えて

今回の研修は教頭が進行役となり、ワークシートに沿って行った。

だれでもどこでも行える演習シートということが分かり、先生方にも他の研修会等で活用するとよいことを伝えた。

どちらの日も夏休みの午後にもかかわらず、教職員一人ひとりが意見をしっかりと持ち、それを出し合うことで、危機への対応について意識を高め体制作りの大切さを再確認できた研修となった。

取組名	全校児童による学校周辺安全マップの充実
取組の特徴	全校委員会で児童主体による学校周辺安全マップを作成することで、児童の危険予測、危険回避能力を育成する。
学校名	萩市立見島小学校

取組の概要

1 目的

- 子ども自身が危険を予測し、危険を回避できるような資質や能力を育てる。
- 学校周辺の安全の諸問題について話し合うことで、自主的、自立的に学校生活づくりに参画しようとする態度を育てる。

2 取組の実際

(1) 事前準備

- 活動の目的や方法について、児童に説明する。
- 登下校時に危険箇所がないか確認をする。

(2) 全校委員会

- 全校児童で話し合い、学校周辺の安全マップを作成する。
- まず、グループで注意が必要な場所を話し合い、そこに潜んでいる危険性を考えて吹き出しカードに記入する。
- 吹き出しカードを安全マップに貼りながら、注意が必要な場所と危険性を発表し合い、全員で共有する。



グループでの話し合い



全体での発表



(3) 活動後

- 全校児童が見られる昇降口に掲示することで、意識の持続化を図る。
- 保護者や地域との連携を強化するために、新しい安全マップを配付し、情報の共有を図る。

3 成果と課題

- 全校児童が参加して、全員で一つの安全マップを作成することで、一人ひとりの危険を予測したり回避しようとした意識が高まった。
- グループで話し合い、全体で発表する場を設定することで、学校周辺の危険箇所を全員で共有することができた。また、教師も知らなかった危険箇所を把握することができた。
- 児童会活動の一環として行い、司会進行や書記なども児童の手によって行ったので、主体的に安全学習に取り組むことができた。
- 危険を回避する能力をさらに高め、児童の行動が変容するように指導を継続していきたい。

取組名	安全教育の充実
取組の特徴	(1) 不審者対応の避難訓練 (小・中合同) (2) 全校集会でのKYT (夏季休業の事前指導)
学校名	萩市立佐々並小学校

取組の概要

(1) 不審者対応の避難訓練 (小・中合同)

6月28日の3校時に、佐々並小・中合同で不審者対応の避難訓練を実施した。それに先立ち、6月17日の放課後、30分程度だが、佐々並駐在所の末久駐在さんに講師をお願いして、「さすまた」の使い方の研修会を開いた。不審者侵入の際には「さすまた」を使用するということは知識として知ってはいても、これまで実際にどのように使えば有効なのか知らなかった職員もいたので、この研修は有意義であった。

不審者対応の避難訓練では、中学校に不審者が侵入したという設定で、全員が小学校の体育館に避難した後、少年安全サポーターの石井さんのお話を聞いた。その中のロールプレイングで不審者から逃れる方法を教えていただいた。



さすまた使用法研修会 (教職員)



避難訓練 (不審者対応) 後の演習

(2) 全校集会でのKYT (夏季休業の事前指導)

1学期の終業式の後、夏休みの暮らし方指導を行った。その中で、右下図のイラストを使ったKYTを実施した。イラストのように、自分たちが家族でキャンプをしていると仮定し、これから起こりそうな危険を想起させた。その後、想起した危険を回避するためにはどうすればいいかを考えさせ、発表させた。

子どもたちは積極的に考え、『中州では遊ばない』など、危険回避のための方法も具体的に挙げる事ができた。



全校集会の様子



災害を想定したKYT資料

取組例	避難訓練（地震津波対策）、安全マップ作り
取組の特徴	①小学校・保育園合同避難訓練（地震津波対策）・・・海に近い地域であるので、地震後に津波が来た場合を想定しての訓練を実施した。 ③安全マップの見直し・・・従来の形式を見直し、地区清掃活動時に危険な場所等を確認し、安全マップを見直す。
学校名	長門市立通小学校

取組の概要

1 小学校・保育園合同避難訓練（地震津波対策）

①目的

- ・海岸近くで校外行事中、通沖の日本海で地震が発生し、津波警報が出されたことを想定し、教職員指示のもとに児童・園児らが安全かつ迅速に避難する要領等を修得することを目的とする。

②実施日時 場所

平成23年5月25日（水）

10:15～10:45

通地区4区（大湊バス停）付近

③避難場所

通小学校 運動場

④協力支援・指導

○駐在所長・・・避難指示広報（パトカーマイクで）

「訓練、訓練。地震により津波警報が発表されました。直ちに高台に避難しなさい。」

○長門市役所通出張所・・・避難訓練を行うことを地域に知らせる。

⑤避難集会

駐在所長、スクールガードリーダーより指導、講評

○成果と課題

漁港近くにいる児童が、津波警報を受けて走って学校のグラウンドに集合するという取り組みを初めて行った。

学校までの坂が急で、全力で走ることは、とても大変であった。

歩道ではなく、道いっぱいになって走ることを臨機応変にする必要があることも分かった。海の近くにいた場合、通地区では小学校が一番の高台であるので、迷わず学校に避難することが大切であるということも分かったと思う。園児たちも途中保育園から参加したが、一生懸命小学校に向かって走っていた。避難訓練としてとても良い取り組みであったと思う。



*急いで坂をあがる児童

2 安全マップ作りを兼ねた地域清掃

①ねらい

- 地域の危険な場所を確認しながら写真に撮り、新たな安全マップ作りに役立てるとともに、児童の危険箇所への認識を深め、安全安心な生活態度を身につけさせる。
- 地域のごみを拾うことを通して、ふるさとの環境や環境問題に関心を持ち、ふるさとを大切にしていこうとする気持ちをもつことができるようにする。

②実施日及び実施時間

10月19日(水) 13:40～14:30

③実施場所・各担当者で分かれる。

- (1区) → 校門から右折の道(通学路ではない)を通り、1区周辺
- (2～4区) → 学校下の公園から早川家辺りまで
- (5区) → 横断歩道からそのまま向岸寺の方へ進みお寺周りなど
- (6～9区) → 9区辺りや段の海岸周辺
- (10～16区) → 通学路を通らず、海岸通りから小浦まで
通学路を通り、小浦まで

③危険箇所を見つけるポイント

- ① 子供たちにとって危険と思われる道、広場、空き家など
- ② 不審者等防犯面で危険と思われる道、場所など
- ③ 津波、高波が起きた場合に避難できそうな高台、建物など
- ④ 子ども110番の家も確認しながら歩く。



*一人歩きは危ない道

④留意点

- 今回はゴミがあれば拾う程度にし、安全箇所探しに重きを置く。
- その危険箇所の写真を撮る(子ども110番の家も)
- 危険箇所の理由を各班で確認しておくこと。
- 通学路以外でも危険な場所があれば確認する。

○成果と課題

いつも学期に一度清掃活動のみを行ってきたが、今回は通学路の危険箇所を調べる安全点検の取組を、教職員と児童でともに行うこととした。

児童は、日頃あまり意識していない場所も、危険箇所探しの視点で検討したり、探したりすることができた。

今後通学路を通る際に、そのことを意識し、自ら安心安全な生活態度をとることができると思う。また、事前に保護者には、危険箇所について、検討していただいている。今回の取組で、児童、教職員、保護者三者による安全点検が実施でき、安全マップを見直すことができた。



*危険な場所を発表

取組名	不審者対応小中合同避難訓練
取組の特徴	隣接する学校同士の教職員が協力して児童生徒を不審者から守る
学校名	防府市立富海小学校、富海中学校

取組の概要



富海小中学校恒例の、小中合同不審者対応避難訓練を今年も実施しました。

校区は交通量の多い幹線道路に分断されているので、常に地区外の人間の侵入の危険にさらされている。

また、地域では、以前にコンビニ強盗も発生しており、こうした問題に対する関心も高い。

<避難訓練の流れ>

1 事前の打ち合わせ

学校安全サポーターと小学校教頭とともに侵入者の動きとそれに伴う児童生徒の避難経路の設定及び通報方法等の流れについて検討を加えた。

2 訓練の概略

訓練に当たっては、市警察署及び地域の派出所、学校安全サポーター、スクールガードリーダー、まちづくりサポート隊等、校区の安全を支えていただいている諸機関及び諸団体の協力を得て

- 避難と通報及びサスマタ利用の訓練
- 児童によるロールプレー

3 事後検討会

十分に打合せを行ったにもかかわらず、不審者侵入と通報のタイミングが狂ってしまっていた。重大な反省材料である。



※小学校からの通報を受けて中学校昇降口で不審者の備える中学校職員



※不審者侵入情報により中学校体育館へ避難する小学生



※児童への声かけ事案に対処するロールプレー

取組名	実地で学ぶ交通移動教室（歩行）
取組の特徴	知的障害のある児童生徒24名に対し、警察官や地域の交通安全指導員らの指導の下、買い物等の校外学習でよく利用する実際の路地で、信号機のある横断歩道や信号機のない横断歩道の渡り方を学習していく。
学校名	山陽小野田市立赤崎小学校・竜王中学校 松原分校

取組の概要

1 開催日時

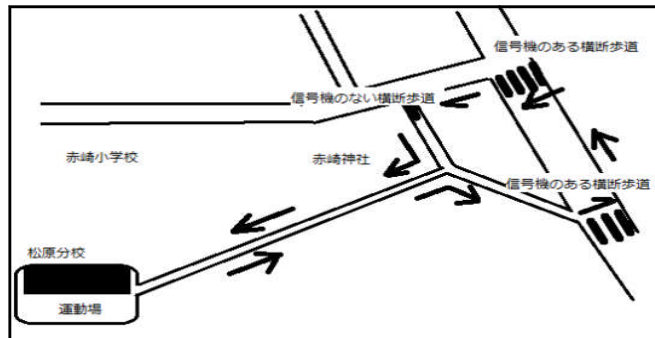
平成23年4月18日（月曜日） 3校時

2 指導者（3名）

山陽小野田警察署員 山陽小野田市総務課職員 交通安全指導員

3 内容

- ① 事前指導（屋内ホール）
*ビデオ「横断歩道の渡り方」の視聴
- ② 歩行練習（運動場）
*簡易信号機を設置して歩道の渡り方の練習
- ③ 路上歩行（校外周辺コース：下図参照）
*小中学部24名を縦割りで3つのグループに分かれて歩行



4 成果と課題

- ◆ 学習の場所を、ホール・運動場・実際の路上と段階的に変えながら、導入・展開・まとめの流れの形態を進めることにより、知的障害の児童生徒にとって適応しやすい交通移動教室となった。
- ◆ 知的障害の特性に応じるために、実際の横断歩道や路上で体験的に学習する方法を取り入れたが、その後の校外学習においても学習したことがくり返し生かされ、大いに成果を上げることができた。
- ◆ 本教室で学習したことを積極的に保護者に伝えながら、家庭と連携した交通安全の取組がこれからの課題である。

①事前指導（ホール）



②歩行練習（運動場）



③路上歩行（校外周辺コース）



取組名	安全教育の充実（小中学校合同の避難訓練・安全教室の実施）
取組の特徴	へき地校の利点を生かし、小中学校合同の避難訓練を実施している。児童生徒の目から見た危険箇所の点検、引き継ぎを行う中で安全意識の向上を図っている。
学校名	阿武町立福賀小学校、福賀中学校

取組の概要

本校は全校児童14名のへき地校である。隣接には福賀中学校（14名）があり、渡り廊下で自由に行き来ができる環境である。運動会や学校祭（文化祭）など様々な行事に小中学校が連携して取り組むなど「小中連携」を推進している。

年間3回行われている避難訓練（不審者・火災・地震）に関しても、小中学校合同で取り組み危機管理意識の共有に努めている。

1 避難訓練（不審者対応）の実際

毎年小中学校総務が交代で計画・提案している。今年度は小学校が当番のため、不審者が小学校玄関から侵入したというという想定で訓練を開始した。

(1) 不審者発見・対応・避難

不審者侵入場所を隔年ごとで小中学校で交代している。今年度は小学校当番のため、中学校の先生に犯人役をお願いした。避難の手順・方法については小・中学校でそれぞれ確認し、体育館に避難した。

(2) 防犯教室（合同）

防犯教室では、今年度の当番小学校の生徒指導主任が不審者対応について、「イカのおすし」を使って指導した。また、110番の家の確認と通学路の安全確認では、小中学生が一緒に確認作業を行った。中学生がリーダーシップをとって小学生に教えながら確認している様子は微笑ましいものであった。

(3) 講評・指導

講評・指導については日頃からお世話になっている駐在所長さんをお願いしている。他市で起こった事例をもとにわかりやすく指導して下さり、子ども達も熱心に耳を傾けていた。

(4) 教師への指導

どこの学校にも常備されている「刺股」であるが使い方によっては、効果がなかったり相手の武器になってしまう恐れがある。そのため、防犯訓練後教職員への講習会が行われた。

(5) 最後に

へき地校である本校には、不審者による事件発生の可能性は低い。しかし昨年度末に岩手県からのIターン定住者が引越しのために中学校生徒に道を尋ね、その中学生が不審者と勘違いし駐在所に迅速に通報したことから、不審者情報が駐在所を通じ地域に短時間で伝わったという事例があった。防犯教室での「迅速に知らせる」という指導が役立ったわけである。

今後もいつでもどこにでも起こり得るといふ共通認識の下、火災・地震の避難訓練と共に取り組んでいきたい。



取組名	小中連携・地域連携の取組及び児童に主体性をもたせる安全管理
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を小中合同で実施していること ・地域による児童の通学路整備 ・児童の安全管理意識を高めるために安全点検日の意識付けと児童による安全点検
学校名	長門市立俵山小学校、俵山中学校

取組の概要

1 安全教育の取組

(1) 避難訓練について

避難訓練を小中連携で実施している。1学期は不審者対応の避難訓練を6月7日（火）に実施。スクールガードリーダー、駐在所、少年安全サポーター、安心安全まちづくりサポート隊との連携の指導に行った。2学期は火災発生時対応の避難訓練を、3学期は1月に地震発生時対応の避難訓練を計画している。

(2) 危険予測学習について

集団下校の際に全校児童に対して生徒指導主任が、交通事故回避のための危険予測学習を行った。

2 安全管理の充実

(1) 通学路整備について

地域のNPO法人が中心となり地域に声をかけて、通学路整備を行ってくださっている。地域・学校・保護者の連携した取組になっている。

(2) 児童の安全意識を高める取組

① 安全の日の取組

月に1度の職員が行う安全点検日に合わせて、児童にも「安全点検の日」と位置づけ危険箇所気づいたらすぐ教員に知らせる」ように指導している。最近では、気づいたらすぐ担任に知らせる児童が増え、安全意識の高まりが感じられる場面が増えてきた。

② 遊具点検

体育委員会の活動の中で担当教員と一緒に児童が遊具点検を行っている。

③ 集団下校並びに通学路点検

毎月1回集団下校を実施し、登校班ノートを読んでの気づきに基づいて指導したり、その時々指導が必要な内容について指導したりしている。

また、学期に1度集団下校の際に児童の通学路を教員と一緒に歩いて、危険箇所がないか点検をしている。



地域の方による通学路整備



集団下校&通学路点検